

るんるん (ルンビニ園広報)

発行者 児童養護施設ルンビニ園 広報委員

平成28年5月1日 第43号

園長のつぶやき

この度の熊本等における地震に対し、犠牲となられましたご家族の皆さまに哀悼の意を表しますとともに、被災されました方々に心からお見舞いを申し上げます。ニュース等で情報を得るたびに、心が張り裂けんばかりの痛みを感じるものです。被災地及び被災された皆さまの、一刻も早い復興を願うばかりでございます。

さて、私たちのルンビニ園も平成28年度が開始されまして、子ども達もようやく落ち着きを取り戻したところでございます。

3月も終わりに近づく日のインターネットニュースを見ておりましたら、「給食だけ」26キロ飢餓寸前母親に手首切られ…里親と出会い「居場所」というタイトルに目を奪われました。中身をじっくりと読ませていただきましたが、内容は、福岡県内の里親(ファミリーホーム)さんに救われた虐待児童のことでした。

中学1年の夏に里親さんに措置されたのですが、その時は身長128センチ体重26キロだったそうです。これは、小学校低学年の大きさなのです。この子を診察した医師は、紙に0から10までの数字を書き、0は死に至り1はアフリカの飢餓状態の子どもであり、1に限りなく近い2であると説明されたのだそうです。医師は、よく生きていたと、ため息をつかれたそうです。

この子の家庭は、母親と母親の交際相手の男、兄二人との5人がアパートで暮らしていたのです。男はいつも暴力をふるい、一番の標的はこの子だったのです。食べ物もろくに与えられず、常に飢餓状態でした。ある時、母親と口論になり、母親にハサミで耳を切られ、頸動脈を切られそうになりました。寸前で、兄が母親からハサミを奪い取ってくれて、この子は逃げることができました。近くのコンビニに入り、助けを求めることができ、無事保護されました。里親さんに措置されることとなりました。ファミリーホームに入った当初、食事になると、強迫観念でゆっくりと食べることもできなかったのです。常に周囲をうかがいながら、ガツガツと食べたそうなのです。食べるものの無い生活と、男からの執拗な暴力がそうさせたのです。その姿を見た里親さんは、「何時間かかってもいいから安心して食べていいよ」と、子どもの背中を優しくさすりながら諭したのです。

この子は、今年の4月から就職し一人暮らしを始めるとのことです。「最初の給料が入ったら、里親のお父さんお母さんにプレゼントをしたい」と言いました。反面、「親にはなりたくない」と、とても切ない言葉が発せられたのですが、それは、「自分は母に似て、自分の子どもを虐待してしまうのではないか」との不安に

駆られたからなのです。しかし今は、“普通の家庭を築いて、子どもに「お帰り」と言ってあげたい”と言いました。僅かな期間ではあったけれど、この子は里親さんの姿を見て育ち、自立したのですね。

この冬に、母親から、「私を見捨てないで」との帰宅を促す電話が入ったそうです。この子は、「お母さんは自分の道を歩んで！私は私の道を行くから」と受話器を置いたのです。

このニュースを読んだ時、よく似た話があるものであると思いました。私どもの園にも、同じ境遇の子どもたちがいるのですから。これだけ世の中に物があふれて、快適な生活を送ることができるようになったのに、なぜこんなに苦しめられる子どもが後を絶たないのでしょうか。里親さんの温かいお話に反し、「なんて身勝手な親なのだろう」と実母に対し憤りを感じてしまいがちですが、この親御さんを責めることができるのでありましょうか。この親御さんも、ひょっとしたら時代の被害者なのかもしれませんね。日本には、もともと子どもを大切にする文化がありました。「子どもは授かりもの」「子宝」と大事にされてきた、そのような日本の姿を、今の私たちは見失ってしまっているのではないのでしょうか。残念ですが、つかみどころのない世の中になりました。

＝富山ライオンズ豆まき＝

1月30日（土）、富山ライオンズクラブによる節分の集いが行われました。

坂井義昭会長のごあいさつがあり、「節分は季節を分ける節目の日であり、翌日は立春となり、春に入っていきます。まだまだ寒い日が続いていきますが、今年もともに励んでいきましょう。」とのお話をいただきました。その後、参加いただきました富山ライオンズクラブの皆さんから豆まきが行われました。「福は内、福はうち」と大きな声で豆まきさながら「飴まき」が行われました。子ども達は、まかれた飴を袋に沢山入れて嬉しそうにしていました。

また、今回もマジシャンコンプレッサーさんのマジックで楽しい時間を過ごすこととなりました。





“ルンビニ園の節分会”

2月3日（水）、恒例のルンビニ園節分会が執り行われました。恒田理事長先生を導師として、子ども達と職員が般若心経をご唱和いたしました。

その後、今年のとし女・とし男の子どもたちが前に出て「鬼はそと、福はうち」と元気な声で豆がまかれました。

理事長先生から、「一人ひとりが、今年もまめに元気で過ごしてくれるよう祈っております。」とのご挨拶をいただきました。

《 激 励 会 》

平成27年度ルンビニ園卒園者の集い「激励会」が、3月5日に行われました。

今回は、4人の女子が目出度く退園となりました。4人のうち1人は美容関係の専修学校に、他の三人は夫々県内企業に就職となりました。

今回の激励会は、在園児の中高生が中心となり、卒園生を励ますための色々なユニークな出し物がありました。会場内は終始笑い声がおこり賑やかな雰囲気でした。最後に、卒園する子ども達一人一人から感謝の言葉がありました。幼いころから過ごしたルンビニ園を去るにあたり、沢山の思い出がよみがえり言葉がなかなか出てこない子ども達を見て、私たちもその思いを十分にくみ取ることがで

き、「ありがとう」の気持ちでいっぱいになりました。



「涅槃会」

お釈迦様の涅槃絵図がかけられたルンビニ園集会室（本堂）において、恒田理事長より、お釈迦様がお亡くなりになられたお話がありました。

子どもたちに向かって、沢山の色とりどりの涅槃団子がまかれました。子ども達は、その涅槃団子を袋に入れて嬉しそうにしておりました。



今回は、鮫島監事さんにもご参加いただき、子ども達と楽しいひと時を過ごしていただきました。



平成 28 年度の体制

ホーム

所属ユニット	予定人数	摘 要
無憂華ホーム	20 (16)	幼9、小一2、小三1、小四2、 小六6
ラゴラホーム	15 (17)	中一2、中ニ4、中三3、高一3、 高二1、高三2
白蓮華ホーム	9 (11)	小一1、小三2、小四1、小五3、 小六2
スジャータホーム	13 (17)	中一2、中二2、中三4、高一2、 高二2、高三1
計	57 (61)	

() 書きは前年度当初

職員

組 織	配置人数	摘 要
園長	1	施設総括
統括主任	1	児童処遇総括
総務主任	1	事務総括
無憂華ホーム	6	幼児及び男子小学生
ラゴラホーム	5	男子中高生
白蓮華ホーム	5	女子小学生
スジャータホーム	5	女子中高生
心理職	1. 5	心理療法
栄養士	1	栄養計算
調理員	5	調理
その他	0. 5	補助
計	3 2	

おわりに

平成 28 年度が始まりましたが、4 月 14 日以降の熊本地震による甚大な被害状況を知りました。日々、お亡くなりになる方が増えていく状況の中で、人間のいのちの儚さを感じるのです。しかし、犠牲となられた方々は、死を通して私たちにメッセージを送っているように思われます。いつ何が起きてもおかしくない私たちの一生です。だからこそ、今賜っている大切ないのちを一生懸命に生きてほしいと願われているのです。今を生きる私たちは、この時の命を精いっぱい生きていくことなのだと思うのです。そのことを教わり、感じつつ、今年も努めてまいります。 職員一同